100年後のこども達に抗菌薬をのこすために

SAVE antibiotics,
SAVE children

その抗菌薬、本当に必要ですか？

未来の子どもたちのために
抗菌薬を大事に使おう

HANDLE ANTIBIOTICS WITH CARE

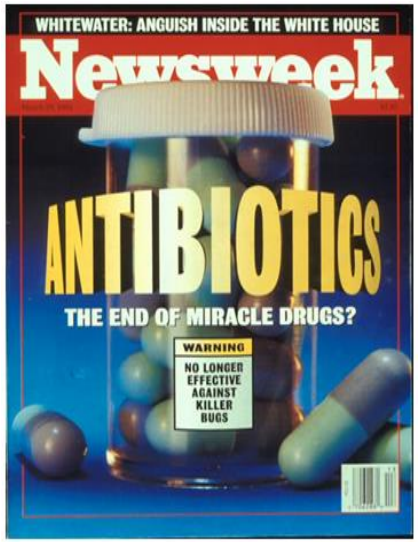
Disease Control & Prevention Center
National Center for Global Health and Medicine

1928年
ペニシリンの発見

奇跡の薬　細菌感染による戦死者の減少。

以降、様々な抗菌薬が開発され、
近代医療には不可欠なものとなった。

1950年頃より
　薬剤耐性菌が増加してきた。



2XXX年
耐性菌で抗菌薬が使えない

耐性菌感染症では、有効な薬剤がないため
ただ神に祈るしかなかった過去の時代に
逆戻りする。

こんな未来になって欲しいですか？

わたしたちは何をするべきか？

正しく知って

正しく行動する

正しく知って

正しく行動する

正しく知る

事実「風邪と抗菌薬」

風邪（感冒）の原因はウイルスである。

風邪の諸症状緩和に有効性は証明されていない。

風邪の合併症（肺炎など細菌の二次感染）予防効果の有効性も証明されていない。

（参考）
吉田 均ら.
小児上気道炎および関連疾患に対する抗菌薬使用ガイドライン
外来小児科 Vol. 8 No. 2 (2005)

Kenealy T. et.al.
Antibiotics for the common cold and acute purulent rhinitis.
Cochrane Database Syst Rev. 2013 Jun 4;6

正しく知る

抗菌薬はウイルスには効かない

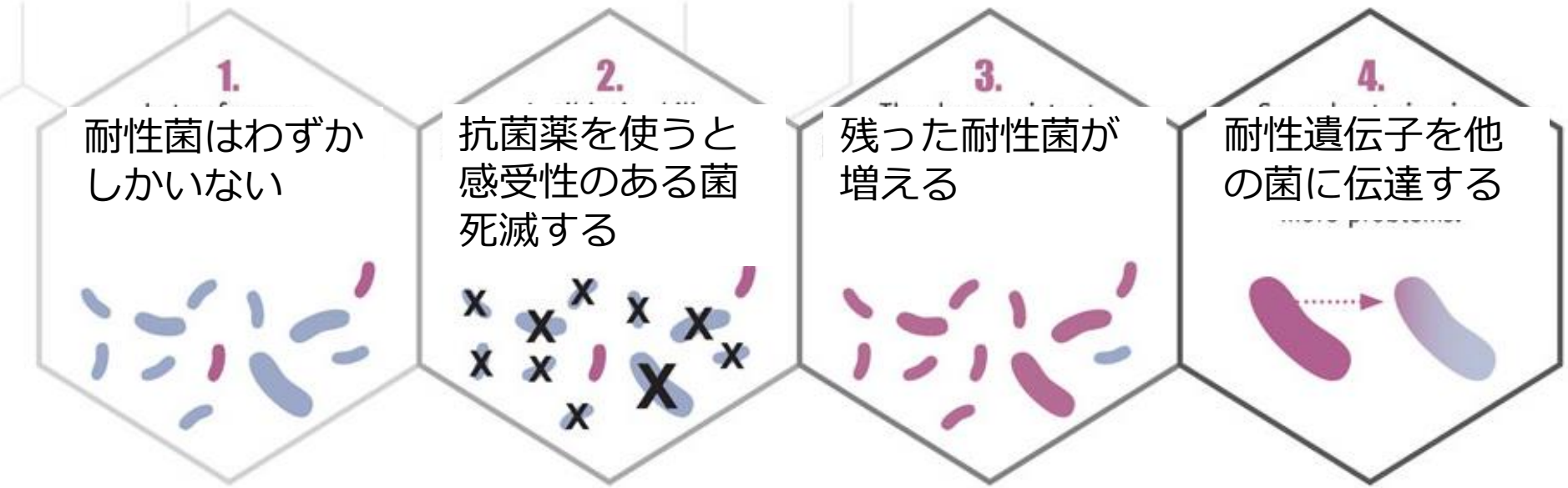
‖

抗菌薬は風邪には効かない

正しく知る

事実「抗菌薬と耐性菌」

抗菌薬を使うことが耐性菌の増えるきっかけになる。



http://www.cdc.gov/getsmart/community/index.html

正しく知る

事実「耐性菌が増加」

黄色ブドウ球菌の約50%が耐性菌（MRSA）

耐性菌の頻度	米国	日本
バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）	79%	0.7%
多剤耐性緑膿菌（MDRP）	34%	0.1%
カルバペネム耐性腸内細菌（CRE）	17%	0.1~0.6%

JANIS 検査部門 2013 年年報

WHO, “ANTIMICROBIAL RESISTANCE Global Report on Surveillance,”

正しく知る

人が激しく移動するグローバル社会
海外での耐性菌状況を
「対岸の火事」ではすませられない

薬剤耐性菌対策に関する提言
院内感染対策中央会議（厚生労働省）

正しく知る

事実「耐性菌が増加（小児）」

耐性菌	割合
ペニシリン耐性肺炎球菌 （PRSP 髄液検体）	47.6%
マクロライド耐性肺炎球菌 （髄液検体以外）	86.6%

耐性菌	割合
アンピシリン耐性インフルエンザ菌	36.3 %

JANIS 2014 年報（検査部門）

肺炎球菌、インフルエンザ菌いずれも
小児の呼吸器感染症、血流感染症、髄膜炎の原因となる代表的な細菌

正しく知る

事実「抗菌薬の副作用」

抗菌薬の主な副作用には、以下のようなものがあります。

発疹、悪心・嘔吐、下痢、けいれん発作、頭痛
好中球減少症、血小板減少症、肝機能検査値異常

薬物副作用で救急受診する原因の1/5が抗菌薬です。

Daniel S. Budnitz,et.al. JAMA 296(15) 2006

正しく知る

事実「重症細菌感染症の減少（本邦）」

2013年４月よりヒブ*ワクチン、肺炎球菌ワクチンが定期接種化された。

ヒブ*による細菌性髄膜炎が99%減少

肺炎球菌*による侵襲性感染症も約半減

IASR 35(10) 2014年8月

＊ヒブ；b型ヘモフィルス・インフルエンザ菌

正しく知る

こどもの重症細菌感染症のリスクは、
あきらかに低減しています。

正しく知って

正しく行動する

WHO 2011年

正しく行動する

No action today ,

No cure tomorrow

今、行動しなければ、明日の治療はない

100年後のこども達のために、今私たちがするべきこと

COMBAT DRUG RESISTANCE

No action today, no cure tomorrow

7 APRIL 2011 WORLD HEALTH DAY

World Health Organization

正しく行動する

必要がないときには
抗菌薬をもらわない

思わぬ副作用の原因となったり、
常在菌が耐性化する可能性があります。

正しく行動する

出された抗菌薬は
きちんと最後まで飲みきる

途中でやめると感染症が治りきらなかったり、
再び悪くなる原因となります。
たま、耐性菌を広げる恐れもあります。

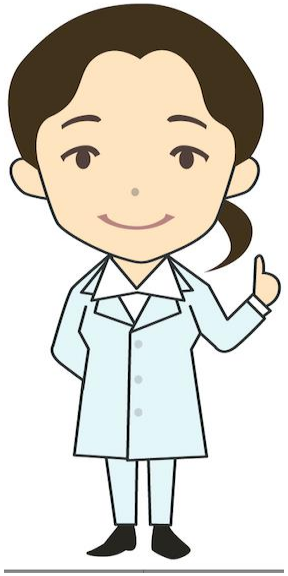
正しく行動する

残さない
あげない
もらわない

あるときに効果があっても、
別の病気に効くとは限りません
思わぬ副作用となったり、
耐性菌が広がる原因となります。

正しく行動する

薬のことは薬剤師に聞く



抗菌薬など薬についてわからないことがあれば、
薬のプロフェッショナルである薬剤師に相談しましょう。

正しく行動する

かかりつけ医を受診する

（かかりつけ）医師は
　風邪と風邪によく似た重症疾患を識別し（鑑別診断）、
　感染症の種類や菌に合わせて抗菌薬を選びます。
また諸症状を緩和する方法を教えてくれます。
そしてわからないことがあれば、相談しましょう。

抗菌薬・耐性菌について

正しく知って

正しく行動する

100年後のこども達に
抗菌薬をのこす（遺す）！

作成
兵庫県立こども病院　小児感染症科　笠井正志

監修
東京都立小児医療センター　小児感染症科　堀越裕歩先生
国立成育医療研究センター　小児感染症科　宮入烈先生
長野県立こども病院　総合小児科　南 希成先生
静岡県立こども病院　総合診療科　荘司貴代先生